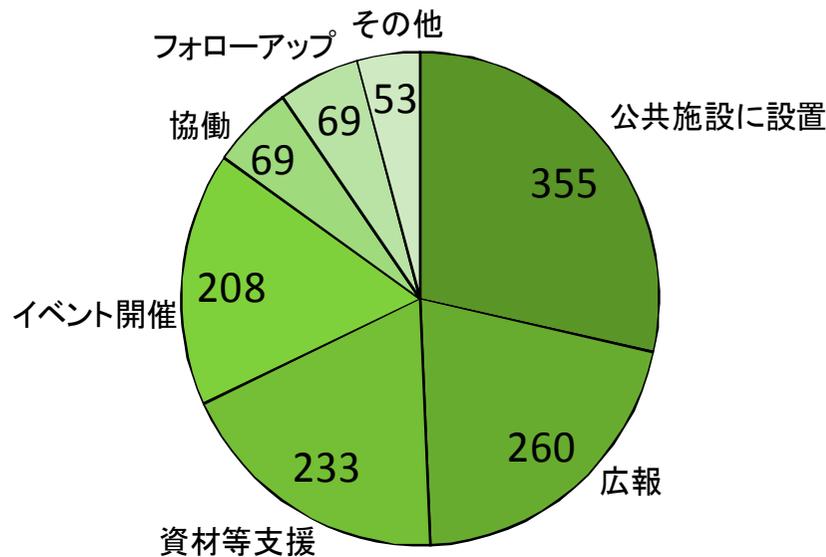


- 緑のカーテンは、アサガオやゴーヤ等つる性の植物を建築物の壁面や窓の外側を覆うように育てて緑化を行うもので、室内の温度を下げる効果がある。
- 緑のカーテンは、子どもやお年寄りも楽しく取り組める緑化活動であるため、地方公共団体による公共施設への設置、広報等の取組を実施することにより、一般への普及促進に努めている。
- 国交省は、地方公共団体等の取組を促進するために、全国の取組事例の調査・紹介を実施。

地方公共団体等の取組み状況(平成24年度)

- 建築物の壁面や窓の外側を覆うように短期間で成長するつる性の植物を育てる「緑のカーテン」について、何らかの取組みを行った**地方公共団体の数は369団体**となっており、昨年度の231団体と比べて**約1.6倍に増加**し、大都市に限らず、全国的な広がりを見せていることが確認された。
- 取組内容としては、公共施設への設置が最も多く(355団体)、続いて広報(260団体)、資材等支援(233団体)、イベントの開催(208団体)等が実施されている(複数回答あり)。
- また、地方公共団体・NPO法人主催による「全国緑のカーテンフォーラム」が開催されている。

「緑のカーテン」に関する地方公共団体の取組み状況 平成24年度(地方公共団体数、複数回答あり)



※地方公共団体の公園部局への調査結果

「全国緑のカーテンフォーラム」の取組事例



PR展示



パネル展示



被災地の仮設住宅における取組報告



パネルディスカッション

写真出典:「平成24年度 第6回全国緑のカーテンフォーラムinみさと事業報告書」